第５回特色ある県立高校づくり懇談会

配布資料

長野県教育委員会　高校教育課

第５回特色ある県立高校づくり懇談会

テーマ

「これまでに出された主な意見と

県教育委員会の考え方について」

最終回にあたり、みなさまからご意見をいただきたい

特色ある県立高校づくり懇談会 第１回～第４回で構成員から出された主な意見

【１】これからの時代の高校の姿とそのための体制づくり

様々な観点からのあるべき姿

・未来を作る力や基礎学力、他者の価値観を許容できる力が必要
・多様な生徒（発達障がい、外国籍生徒等）をフォローする環境が必要
・輝く大人たちと出会うことなどを通じて、地域を学び地域を担う人材の育成が必要
・どのような進路にも対応できる学科を超えたコアカリキュラムが必要
・社会に出る準備を提供する必要がある（メイクの授業等）

学びたいことを学べる体制づくり

・地域、大学、産業界、市町村、塾等と連携することが必要
・地域資源（自然、文化など）の活用が必要。地域コーディネーターの配置が必要
・中山間地の高校は同質性が高いので全国募集など開かれた学校にすべき
・どこでも学べる部分はオンラインで共有化し、残りのリソースは生徒に向き合うべき

【２】多様な選択肢の確保

学校選択の現状

・偏差値以外の特色がないと、偏差値の枠は破れていかない

考えられる具体的な選択肢

・特進クラス　：見えやすい 魅力の一つだが、保護者からは賛否両論の意見がある
・中高一貫（併設型）　：　魅力的な選択肢になるが、市町村との連携が必要
・中高一貫（連携型）　：　可能性は十分ある。中高の教員の連携は新たな展開になる
・国際教育　：　世界に目を向け、海外のトップ校を目指す高校があってもよい
・バカロレア　：　学費面で有利。教育課程はタフ。既存校での英語充実も。公設民営も手
・職業系高校　：　どの就職先でも活躍できる力が必要。大学進学の保障も必要
・高専　：　進学や就職で魅力があるが、多額の経費や教員確保が課題
・情報科　：ニーズは高い。ハードルの低い学びやSNSの学び、企業連携も必要
・福祉科　：介護福祉士への産業界のニーズは高い。子どものニーズがあるか確認も必要

【３】どの高校でも希望の進路を実現

生徒が希望する高校を選択できる

・県立高校がどんなことをやっているのか見えづらいので、もっと情報発信が必要
・進路希望調査は、既存校の枠での選択や時期が遅いなどの課題があり見直すべき
・特色化すると希望と合わないことがあり、他校への行き来を弾力化することが必要

学びの保障としての中山間地校

・地域に根差した高校の方が地域との連携がとりやすく魅力になる
・中山間地のニーズは多様なので１つの学校の中でその多様性に対応することが必要
・一校自前主義を超えて小規模ネットワークスクール構想をモデルで作ってみたら
・再編基準を定めたときと状況は非常に変わっており、基準を検討する余地はある

懇談会で出された意見を受けての
県教育委員会の考え方

○ 今後の方針

本懇談会の意見を踏まえ、知事部局とも連携し、県教育委員会として令和６年度の上半期に、県立高校の特色化に関する方針を決定する。

その方針を踏まえ、予算措置が必要な事業については、令和７年度当初予算へ反映させていく。

○ すぐに取り組みたいと考えているもの

【１】これからの時代の高校の姿とそのための体制づくり

地域連携コーディネーターの増員	・現在の２校（野沢北高校、池田工業高校）に加え、新たに２校程度に配置し、効果を検証しながら、更なる配置を進めたい。
全国募集	・現状の２校（白馬高校 国際観光科、飯山高校 スポーツ科学科）に加え、令和７年度入学者募集に向け、まずは新たに２校（木曽青峰高校 森林環境科、インテリア科、小諸高校 音楽科）での実施を検討する。

【２】多様な選択肢の確保

偏差値以外の選択肢 高校からの情報発信	・高校生が自校の魅力や取組を紹介する合同説明会を開催し、中学生が自らの意思で進路について考える機会を創出する事業を次年度実施する。
中高一貫校	・まずは、連携型についてメリット、デメリットを整理し、設置に向けた研究を進める。
県立高等専門学校の設置	・高い専門性の確保など設置のメリット、教員確保や地元就職者が少ないなどのデメリットについて整理し、研究を進める。
新学科の設置	・懇談会で出された意見を踏まえた方向性を統合新校や既存校と共有し、検討を行う。

【３】どの高校でも希望の進路を実現

中学生の希望の把握	・生徒の純粋な進路や学びの希望を把握するため、次年度から新たに中学３年生の年度当初に進路希望調査を実施する。 ・数年間のデータから傾向を分析した上で、募集定員設定の参考とする。
再編基準の再検討	・少子化や地域の現状、ＩＣＴ技術の進展など社会情勢の大きな変化を考慮し、再編基準のあり方について、一度立ち止まって検討を行う。

資料一覧

（第５回特色ある県立高校づくり懇談会）

１　これまでのまとめ（第１回～第４回）　・・・5

２　高校１年生の進学意識調査の結果　＜再掲＞　・・・19

３　高校生の声を聴く会の発言まとめ　・・・22
　（１）松本工業高校での声を聴く会
　（２）上田高校での声を聴く会

４　県内産業界等へのヒアリング結果　＜再掲＞　・・・26

５　教員アンケート結果　＜再掲＞　・・・29

６　市町村・市町村教育委員会アンケート結果　＜再掲＞　・・・31

１　これまでのまとめ（第１回～第４回）

（特色ある県立高校づくり懇談会）

第１回懇談会「これまでの高校とこれからの高校」

○　県立高校の現状と課題

【高校の情報発信】

・「高校が見えてこない」、これは子どもたちの共通の悩み。
・私立はものすごく頑張っている。県立高校はもっと広報を。わかりやすい高校にしてもらうのも大事。
・県立高校はどんなことをやっているのか見えづらい。
・「高校にちょっと魅力がない」といろいろな方から言われるが、情報発信不足や校舎が古いことなどが大きな理由になっていくのではないか。
・高校現場では、そもそも発信すべき情報が少ない。
・高校現場はパンフレットやホームページで発信もしているが、厳しい予算の中で限界もある。

【偏差値による高校選択】

・偏差値とかで、どこの高校に行くっていうのが決まると感じた。
・中学生が高校選ぶときに、５教科の学力の点数はすごく大きな要因。
・原付で日本１周をして全国の中３の子の話を聞いたが、偏差値と距離で高校を選ぶ子が多いと感じた。
・特色で選んでもらうことを目指しているが、まだ現場では欠けている。
・普通科でも、こんなやり方で可能性を伸ばしますというような武器がないと選ばれない。

【特色化の必要性】

・現在の高校に「特色」がないなら、時間割、単位、学び方、学習環境、カリキュラム、人事など抜本的改革が必要。
・私立の通信制の高校に通う人が過去最大。学校に行って学ぶというスタイルを大胆に変えてもいいのではないか。
・移住で選ばれる理由の一つは、教育環境。
・県立高校でも他県から生徒が来るレベルの改革を期待したい。
・高校には、普通科、職業科、全日制、定時制、通信制などがあるが、そういう制度をこわした学校みたいなものをモデル校として作ってみたら。

○　これからの高校に必要な視点

【高校で育むべき力】

・失敗することもあるが、社会に出てからその失敗した経験も力にもなると思う。
・生きるイコール稼ぐ力だと思うが、稼ぎ方を知らない子が多い。
・成功体験や前に進めていく体験が大事。やりたいことを突き詰めた結果、お金が必要になるから、そのためにどうすればいいかという経験があってもいい。
・若い人たちに、突き詰める環境を私達が懐深く持てるかが勝負。失敗したとしても、何が必要だったのかを突き詰めていこうというところに学びが生まれる。

【改革の方向性】
・「自分の学びたいことを選べる」ことをキーワードに考えてみたらどうか。
・若い人たちがやりたいことがやれることが重要。
・高校は就職する子も進学する子もいる。高校の役割はそこをどう考えるかということが重要。
・高校生をこれからの社会を共に創造していくパートナーと位置付け直すと、そこでの学びは、生きるための能力観に矮小化されてはだめで、自己調整学習に焦点を当てた学びや人生を「楽しむ」ウェルビーイングとの距離感にも目配せをして、学びのイメージを刷新していく必要がある。
・収入に関係なく、進学意思がある子が進学できる体制が必要なので、公立は残して欲しい。

【多様な選択肢の確保】
・総合学科ではスポーツトレーナー養成学校の授業を受けるなど、特色のある学びをしており、選択肢があることは重要。
・「選択肢を増やす」と「その選択肢を選択できる」ことは別の話で、実質的に多くの人が選択できるように環境を整えていく必要がある。

○　これからの高校に求められる特色化や学び

【特色化の例】
・校則が厳しいことに疑問を持つ子が多いので、意味のある校則を生徒と一緒に作ろうというテーマで学校をスタートした。
・公立高校でメイクの授業がある学校が佐賀県にあるが、社会に出る準備、自分のしてみたいことができる高校は人気。
・例えば、学校でサウナ施設を作り、どのような施設にしたらお客さんが来るかとか、何か成功体験をさせてあげるのはすごく良いこと。

【学びの改善】
（オンライン活用）
・長野県の素晴らしい人たちと学びたいと思った子どもたちをオンラインで繋いでみることもできると思う。
・長野県は山が多くて県域が広い。全県とか県内からオンラインで学ぶというプログラムも魅力の一つになるのではないか。

（選択と集中）
・どこでも学べる部分はオンラインや通信制を使って共有化をしながら、残りのリソースは生徒たちと向き合い、ここだからこそできる学びに振り分けていくのが根本的な戦略。

（体験学習等の充実）
・高校生のインターンシップのような、地域のニーズと高校生の体験学習を融合し、それらの体験を単位に変換できる制度を設けることができればいい。
・フランスのワーキングホリデーをしたが高校の単位とか認められていたので、そのようなやり方もあれば良い。
・「みんなでグループ学習のようなことで一つの事を話し合って学習をしていく授業」とか、「いろんなカリキュラムを選べる高校」に子どもたちはとても魅力を感じると言っていた。
・屋代付属中が、スタートアップ補助金で買った３Ｄプリンターで小学生向けの科学教室をやっているが、リアリティのある課題は、様々に展開できる大事なテーマ。
・各学校から代表者を募り、「高校生会議」を開催し、行政に携わる経験をさせることがいい。

【多様な生徒への対応】
・学校は、平均的にできる子を求めているように思う、何かに特化した子を受け入れてくれる学校は非常に重要。
・高校受験に関して、発達障害の子に対する配慮がどの学校でもできるようにしてもらいたい。
・試験に関してはルビ振りとかをやっている。
・外国籍の生徒をどう育ててあげるかは課題。
・配慮が必要な子をフォローする環境を整えることが必要。

○　特色化にあたっての留意点

【地域との連携】
・特色のカギは、学校の中だけでやろうとしていないこと。地域にある自然や文化等を教育資源に変え、それを活かした魅力ある教育をつくっていくべき。
・学校と地域や企業との壁を低くすることが必要で、それをコーディネートする人材をきちんと確保しなければならない。
・学校と地域の関係者をつなぐコーディネート人材が全国的に見ても重要。
・高校生のＵターン率を高めるには、高校時代に、この地域で生き生きと幸せに働くロールモデルとの出会いがあるかということ。

【教育資源の活用】
・子どもたちが「明日、学校に行きたい」と思える学校を長野県の素晴らしいリソースを使ってつくることが必要。

【教職員の処遇改善】
・高校の特色をより磨いていく上で、現在の教職員だけで限界があるなら、県が予算計上し、それを専門に担うコーディネーター人材等の育成・設置等の検討が必要不可欠。
・教員をどうエンパワーメントしていくのかということは重要なテーマ。
・高校教師には塾講師がうらやむくらい待遇の良さがなければいけないと思う。

（参考）オブザーバー意見

【特色化の必要性】
・通信制高校の生徒が多くなる中で、工場型の教育のあり方っていうのを、まず変えなくてはいけない時代になっている。

【改革の方向性】
・子どもが持っている特性をこれからの世界に活かせるように育てていくには、個別最適性も重要なキーワード。
・子どもの数が減る中、高校入試のあり方や高校までの義務教育化も少し検討する必要がある。

【多様な選択肢の確保】
・特色には、英語で学べる学校、中高一貫、全国募集など様々な観点がある。

【選択と集中】
・どこでもできる学びとそれ以外の学びを意識的に峻別していかないと、限られた資源を有効に活用できない。

【地域との連携】
・学校と地域がフラットに繋がってほしい。

【教育資源の活用】
・長野県の強みという特色を生かして、高校のあり方に繋げるもが重要な視点の１つ。

【教職員の処遇改善】
・新しい教育を単にプラスするだけだと、教員数を倍増しても足りなくなると思うので、先生の役割をどうするかを県民のコンセンサスをいただきながら解決する話だと思う。

第２回懇談会「県立高校の入口出口」

○　入口の現状と課題

【高校の情報発信】
・中学生には、学校が見えにくいので、もっと情報を知りたいというニーズがありそう。
・情報が不足しているので、工業や農業などは親の影響などがないと選ぶチャンスがない。
・進路選択できない子もいるので、普通科は特色を作って発信しなければいけない。
・工業高校のプレゼンテーションを中学校で実施するなど、宣伝活動が必要。

【偏差値による高校選択】
・偏差値縦割での学校選択は存在する。
・大卒と高卒との給与差が大きいので、みんなとりあえず普通科で大学を目指す。
・偏差値以外の特色がないと、偏差値の枠は破れていかない。

【進路希望把握についての課題】
（既存の学校・学科枠での選択）
・既存の学校の枠にとらわれた形で、中学生が答えてしまう調査を見直す必要がある。
・固定的な学科構成により生徒の希望を誘導している恐れは、事実としてありうる。
・長野は海外からも認識されているので、海外からも学生を集める高校とか、未来に繋がっていくような話が必要。

（調査時期）
・塾の多くの子は、８月には希望校を決めるので、10 月の段階で、子供たちの希望かというと、何とも言えない。
・10 月の調査は、実際には偏差値で輪切りにしていることがあり、純粋な希望とは言い切れないのではないか。

（中学生の選択能力）
・希望を聞かれてもわからないという生徒も多く、周りが言うことに流されてしまうのではないか。
・希望は大事だが、調査のあり方とか、そもそも生徒はきちんと判断できるのかという、現実的な話があるので、そこはしっかり向き合っていく必要がある。
・生徒の希望を大事にすることはとても重要なことだが、現在の調査方法で皆が納得するかと考えると、少し弱いかもしれない。
・中学段階でいろいろな話を聞く機会を増やすことが、高校や大学をどうするかというところに繋がる。

【育むべき力】
・一番高校として大事なのは未来を作り出せるような力を持った生徒を育てられるか。
・人間力とか探究力を伸ばすために、様々なことを経験することが大事。
・県内生徒や先生たちに「とりあえずやってみようマインド」がもう少しあってもよい。

○　出口の現状と課題

【学んだ学科と関連のない職業への就職】
（農業科）
・製造業でも食品加工やバイオテクノロジー、環境を扱う業種などは農業科で学ぶ知識を活用できるのではないか。

・農業科の子が製造業の食品加工の仕事に行っていると思うのでそれも踏まえる必要がある。
・農業科の学生に農業という就職先がないのは、農業界の課題だと感じる。
・農業好きな子は一定数いるが、就職先に農業がないという状況があるのではないか。
・農業科を出た子がすぐに農林業に就くように誘導するのは、今の時代ではナンセンス。

（求人票に基づく就職）
・現場の感覚からすると、製造業の求人が４割強ぐらいと多く、普・農・工・商で就職している割合も求人票の割合と同じようになっている。
・学んだ学科と関連のない職業への就職状況が、求人票の選択肢に依存するならば、そこを改善することによって構造が変わるかもしれない。
・直接農家に就職する高校生はあまりない。求人票がないから。
・ハローワークの求人票ではない別のルートで農業に就職できる形ができてこないと農業への就職は難しいと思う。

（学科と無関連な職業への就職）
・学んできたことが生かされていないことは実際にはないのでは。
・高校で基礎学力を身につけ、大学で専門性を養い、その先に世界が広がった経験から言うと、高校から専門の勉強をいきなり始めると、逆に可能性が縮まることもあると思う。
・学科で捉える思考パターンに囚われすぎており、学科で進路のあり方を考えるということ自体がナンセンスでは。
・産業界の人材不足への貢献を地元定着と理解した場合に、それはコントロール可能か、むしろコントロールする姿勢を示すことが、若者にマイナス要件になるのでは。
・現場の職員としては、違う方面への進路選択は、「ミスマッチ」というよりも、生徒たちが自身と向き合った結果の「進化」と考える。
・実際の高校卒業者は、学んだことを活かしていないと矛盾を感じているのだろうか。
・人手を確保できないという課題は、企業の求人数に対して就職者が足りていない状況を考えると、教育への要請だけでは解決しないと推測できる。

【出口に対応した学び】
（学科を超えた学び）
・学科構成をどうするかより、従来の学科でどうやって未来の作り手を育てるのか、それに対応した学びを作れるのかというのは非常に大事。
・学科別の卒業先にこだわるよりも、学びの選択肢が広い総合学科や総合技術高校など、カリキュラムの改革が必要では。
・普通科に農業とか工業を入れることはできないのか。普通科のような学びもできる、工業や他の学科もあるように、もっと選べるチャンスを後に延ばすべき。
・学科構成もさることながら、先生方のマインドチェンジも大きな課題。
・全産業が共通して求める能力は、どんな進路でも活躍できる力。
・インターンシップやフィールドワークなど、校外に出て他者と関わる機会を増やすべき。
・生徒のニーズか社会ニーズかという対立的な発想ではなく、生徒がこれから生きていく社会のニーズを踏まえてそこを繋ぐことが重要。

（キャリア教育の充実）
・学科構成の修正ではなく、社会人と接する機会をもっと設定していくべき。
・輝く大人たちと出会うと子どもたちに化学反応が起こる。そのような場を作ることが必要。
・ふるさとにはどんな職種職業があるのかを知ってもらうことが一番大事。

（職業科での進学に向けた学びの提供）
・進学をしたくても職業校でサポートが弱いとしたら、補強しなくてはいけない。

・職業科の生徒が大学進学を目指せるよう、普通科の学びを取り入れることが必要。
・専門科にいても、進学希望者に対するケアを充実させることは、学習権保障という点においてもとても大事。

【地元愛・地元就職】
・進学で他県に出る生徒もいるが、長野県に戻ってもらうには、高校生活の中でどれだけ地域にアクセスできるかが大切
・地元でこれからも生きていきたいという子もいるが、外の世界を経験して、そしてこの地元愛を育んで欲しい。
・１人ひとりのウェルビーイングや人権などが大切にされて初めて地元愛は自然に育まれる。
・長野県のことが好きすぎるあまり、生徒が外の世界を知らないのではと不安。
・長野県や日本という軸を持って、これからやることに挑んでいってほしい。
・グローバルな視野を持ちつつ足元のローカルなこともやることは大事。

○　入口出口の対応方法

【ニーズの把握】
・社会のニーズ把握には、現在の企業が求める力というより、子どもたちの５年、10 年後に必要な力といった観点が大事。
・産業構造はどんどん変わるので、社会ニーズは先を見ながら考えていく必要がある。
・中高校生のキャリア発達は可変性が高いので、今の希望やニーズだけを考慮して設計するのも不十分だし、今の産業界のニーズだけを考慮して設計するのも駄目だとすると、未来のニーズを県が示すしかないということになるのではないか。
・長野県の産業は時代が変わっても、そのニーズを先取りして継続してきており、今のニーズに応える人材を送ってくれればよいという考えの経営者はそんなに多くない。
・適切な希望の把握には、中学生の中に大切な基準があり、かつ高校側に選択肢があり、その情報がきちんと伝わっていることが必要だが、その条件が整っていない中での生徒の希望で決めるのはちょっと乱暴。

【学科構成比の決定方法】
・中学生の希望を聞くのもいいが、県がどういう県にしたいのか、教育をどうしたいのかを、県や教育委員会が専門的な知識を持った上で決めていくべき。

・こういう未来を作るという県のビジョンと、未来のニーズからどういう教育が必要かを、バランスを見ながら、県立高校をデザインしていくというのが基本
・県のビジョンに見合った形にするのも一つの方向
・農・工・商という分類よりも、そこでどういう新しい価値を生み出せるのかという観点で、学科そのものを変えていく方法もある
・学科の構成を変更するということだけでは、解決は困難だと思うので、カリキュラム編成まで手を入れなくてはいけない。
・専門学科で学んでいる子どもに、今後の専門科をどうしていくかを聞くことも大きなヒントになるのでは。

（参考）オブザーバー意見

【偏差値による高校選択】
・この地域でこの成績だったらこの辺みたいな相場観がある。

【既存の学校・学科枠での選択】
・進学重点校という高校が必要か否かという議論は少なくともすべき。
・介護学科は長野県にはないし、観光も白馬だけで地域的に限定される。
・海外大学に直接行く子どもの大学進学をどう考えるのかということは重要。
・中高一貫教育を、メリットデメリットを検証しながら、検討する必要がある。
・公立高校同士の編入はもっと簡単にできる工夫が必要。

【学んだ学科と関連のない職業への就職】
・農業科を出たから必ずしも農業をやる必要はないが、農業科から農業に就く人が少ないなら何らかの議論が必要。

【出口に対応した学び】
（学科を超えた共通の学び）
・変化が激しい中、時代が変わっても通用する学科に捉われないコアカリキュラムが必要。

【ニーズの把握】
・今のニーズに対応するのではなく、未来のニーズをどう汲み取るのは非常に重要。

第３・４回懇談会「県立高校の特色化・魅力化」

○　魅力ある選択肢を拡大させるためにどのような高校が必要か

【特色化の前に】
（目標等）
・長野県の高校生がどんな能力を身に付けるべきだろうかという根本的な議論は重要。
・どのような能力を身に付けられるのか、進学率などを出したときに、メリットや弊害が出てくるので慎重な議論が必要。
・子どもの希望実現率ナンバーワンや高校生のウェルビーイング日本一など、難関大学進学率ナンバーワンのような昭和的価値観ではなく、未来型のコミットメントの旗を掲げてみては。

（基礎学力）
・特色もいいが、県全体として基礎学力を上げ、『学ぶ力』を育てることが大切
・探究の発信をするときに、ベースになる学問をおざなりにすると、大人になって困るのでは。
・一番問題なのは詰込まれていなくて欠落していくこと。学ぶ力を育てることは大切。
・学力の底上げは大切だが、勉強が嫌いな生徒もいることは忘れないでほしい。

【特色化の方向】
（進学実績）
・進学率や部活が強いかどうかなど、分かりやすい基準で生徒や保護者は選ぶ。
・親友関係等を除いて、中学生が高校に求めることは、進路実績と授業の面白さ。
・学校は生徒の夢実現に頑張っているが、東大や国公立の進学率が学校の人気に関わることとどう折り合いをつけるかが課題。生徒の希望や夢と乖離しないように見守る必要がある。

（特進クラス）
・特進クラスのように、受験に特化したクラスも見えやすい魅力の一つ。
・特定の大学進学を特色とまでしなくても、最高学位を目指す子どもたちへチャンスを提供することも大事なので、トップ校といわれる高校には特進クラスを設けてみてはと思う。
・京都府は、特進クラスが受験時にあり、最初に入れなくても、2・3年のとき成績で編入できた。進学を売りにする高校は、もっと進学に特化した特進クラスを作るのもいいのでは。
・共通テストは教科書レベルでは教えられないので、学問的な探究が必要。特進クラスで学問的な探究を行ってはどうか。学問でがんばりたい子のためのクラスもあってもいいのでは。
・特進クラスは、保護者からは両極端の意見があるが、探究を武器にした進学も進んでいるので、特進クラスを作るより、どの高校でも自分の問いが大学の学びに繋がればいい。

（中高一貫校）
・中高一貫校は非常に魅力的。高校受験と大学受験がある現状では中学高校の6年間が勉強漬けになる。この6年は青春のとき。それが勉強に費やされるのはもったいない。
・中高一貫校を作れば、必ず生徒が集まるが、先取り学習すれば深い学びができるのか慎重な見極めが必要。今の高校教育では、共通テストへの対応も難しくなってきている。
・中高一貫校は、子どもにとっては魅力的な特色になりうる選択肢が増えることになる。生徒の奪い合いになるからいけないというのは、そこまで気にしなくてもいいのでは。
・地元の市町村が嫌がるケースはあるとは思う。連携と併設のメリットデメリットをそれぞれよく研究し、市町村と連携したうえで、それぞれのいいとこ取りが長野モデルにならないか。
・大学受験の一般選抜が全体の4割。中高一貫の方が、早い段階から、探究も含めて自分のやりたいことができる。そうすると、高大連携にもつながる。
・中学の時から探究をはじめ、高校に繋がるのはいい形。ただ、中高一貫を今後増やせばいいとは思わない。
・中高一貫には賛成。ただ、教員にかなりのスキルがないと先取りの探究は難しい。中学で出

会ったコミュニティ以外の人と高校で出会うことが貴重な経験になる。
・中高一貫は、中学から入り、余裕があるのがメリット。長野市立はタブレットがすべて無償配布。
・連携型の中高一貫は可能性が十分あるかと思う。
・高校と中学の先生が連携するのは、新しい展開になるか

（国際教育）
・グローバルの世の中において、外国語やコンピューターサイエンスは教育インフラ。
・世界にもっと目を向けて、海外のトップ校に進学できる高校があってもいい。
・デジタルがインフラとして学校や地域にあると、外国人がグローバルに仕事でき、ここで子育てと思えるようになる。それが日本の子に英語を学びたいと思うようになり、特色に繋がるのでは。

（国際バカロレア）
・バカロレアは、外国の方には分かりやすい。公立で導入すれば、学費面で圧倒的な強みになる。ただ、大学進学を含めてカリキュラムがタフ。大方偏差値が高い子が来る。バカロレアだからいいわけではない。どんな戦略をやるのか慎重に。
・日本の大学に行ける国際高校で、英語授業をやるという手段もある。
・公立でやるとなると相当タフ。覚悟が必要。
・公立で運営というと、そのノウハウがあるのか。一般的には私立がけん引している。公設民営はどうか。

（職業教育）
・職業系高校は定員割れしていて、とてももったいないが、中学生の子にとっては、大きなきっかけがないと、職業科は選びにくい。

（高専）
・高専を新たに設置するのは賛成。大学に進学できるし、求人も多く、魅力がある。企業と連携して専門家を育てることも大事。
・高専と工業高校の生徒層が異なり、同列は難しく、それぞれ充実が必要。また高専を作るとなると、お金の面、人の面で大変なハードルがある。
・高専は産業界から人気。県の産業界と一緒になってやる必要がある。デジタル系学科がないならば、一つの選択肢として情報デジタル系の学びを充実した学科を検討してみては。

（情報科）
・情報は先生の取り合い。ニーズは高い。介護は単位の問題や上位学校への引継ぎができない等の制度の課題がある。
・高専を視野にデジタル系の学校を創ることは、非常にニーズがある。企業を絡めたり、公設民営含め、アカデミックと実践的な学科を。
・デジタル科を設けることと、長野県全体でデジタルスキルを実践的に学ぶハードルの低い学びやＳＮＳの学びも必要。

（ＳＮＳを含めたデジタル活用）
・中学生にＳＮＳで高校のいいところをＰＲできると、中学生も長野県の高校に魅力を感じる。
・ＳＮＳ学習の導入を。長野県の十代がＳＮＳの使い方上手になれば、長野県観光地を盛り上げられることになる。高校時代に学ぶべき。

（福祉科）
・福祉は産業界からニーズがあるのは分かるが、子どものニーズがあるのか確認が必要。
・福祉関係者からは働きながら介護福祉士を取得するのは大変だから諦めていると聞いている。生徒募集は難しいが、ビジネスと福祉を結ぶなど何かアイディアがあるのではないか。

（多様な選択肢）
・須坂創成高校のように、一つの学校でいろんな選択肢がある学校は選びやすい。
・特色化すると、特色が合わなかったときに、他校等への行き来を柔軟にする必要がある。
・私立は誰もが行けるわけではない。部活も費用がかかる。保護者としては、公立で選択肢があることが理想。

（社会体験の充実等）
・人とのかかわり方を高校時代に身に付けることが大切。自分の価値観を広げ仲間の考えを許容できるようになることが重要。
・企業とコラボして県内の子から募集したデザインで制服を作り、それを販売するなど予算のかからない面白いやり方があると思う。
・信州の自然学習と農業を全学校で必須はどうか。

（アルバイト）
・アルバイトのデュアルシステムなど、日本らしい単位互換性システムを。
・普通科でアルバイトの経験を。地域社会と触れることなく大学生になる子もいる。社会との接点を設けることで引きこもり対策にもつながる。
・アルバイトの許可は様々なケースがある。基本は学校生活が前提のためのチェックが目的か。学業と逆転するケースには注意を。

（生徒の自主性の尊重）
・あまり大人が関与しない、生徒の自治を特色化に。
・夏休みが短くては、やりたいことや新しい出会いがないまま終わってしまう。地域の夏祭りも楽しめる余裕を。
・高校生活の余白がもう少しあって、豊かな体験や学びができるのでは。

【特色化するために】
（地域との連携）
・他県から人を呼ぶのは、学校だけでなく、地域の中の学校をどうするかという観点で、地域連携等を考える必要がある。
・高校だけでなく、自治体・企業とどうやって協力体制を構築するかが重要。
・都市部から長野県へ学びに来るには、全国的な状況を見ると、地元市町村が協働しているところ、寮や地域コーディネーターも地元市町村配置しているところがうまくいっている。

（産業界との連携）
・教育だけでなく産業界も巻き込んで〇〇×STEAM という枠組みも面白い。
・学校だけでやれる限界がある。教育以外の産業界の予算を使い、柔軟な予算の活用やこれまでにない発想が必要。

（民間・私立との連携）
・中山間地校含め、塾などの民間との連携を考えてもいい。
・全国募集で生徒の奪い合いをするより、長野県は魅力で集められるように、私立や地域も合わせて、場合によっては、公立の運営を民間が関わることも考えたほうがいい。
・公立と私立の連携も必要。大学も奪い合いでは先がない。どうやって連携するかのフェーズになっている。
・距離があってもＩＣＴで学校間連携ができる。私立が入り、置いてかれる子がいないようにお互いが補完すればいい。

（高大連携）
・信州大学は、次年度から総合選抜の地域枠ができ、今後も増えていく。高大接続など、探究を深める質の違った形を模索してみてはどうか。

（教員の役割等）
・学力があり学び方がわかる人は YouTube 等で学べばいい。困っている人を助け、各自の学ぶ力をつけることが、先生に必要な力。いままでの一斉教育ではない形があると思う。
・教員の役割がティーチングから、もっと子どもに寄り添う形へ変わっていく。
・自分が教えなくてもネットに素晴らしいものがある中で、どうやって折り合いをつけていくのか、教員としての存在意義に悩む教員もいる。
・探究のコーディネートが教員は苦手。コーディネーターを配置してほしい

（参考）オブザーバー意見

【特色化の前に】
（目標等）
・子どもたちがどういう能力を身に付けて出ていくかという議論が学校の特色の前提。
・県立高校を出た子に、こういう能力を身に付けることを保障するということを明確にし、読み手目線の対外的な発信が大切。
・目標をわかりやすい言葉で、何にコミットメントするのかを示していくことが必要。

【特色化の方向】
（進学実績等）
・受験の合格実績も特色で、産業界や移住しようという人も見ている。
・受験勉強の競争には参画しない道を行くのか、そういう学校も作るのか、長野県全体でそういうこともやっていくのか意思決定しないで議論があいまいなまま進むのは良くない。
・外形的な進学率を上げていくことの是非は県民の皆さんと学校関係者との議論が必要。
・進学について産業界や地域の声を聴いて議論を。医師確保は県にとり重要だが、大学進学に向けた支援や教育の充実で選ぶ人は増えている。進学がその関心事であることは間違いない。
・東京都は進学重点校を指定してやっている。県民にも賛否両論ある。学校で決める話と県全体で決める話をしっかりと考えて、もっとオープンな議論を。

（中高一貫校）
・中高一貫校は、地理的に偏っている。どこに住んでも選択肢の確保をする必要がある。

（国際教育）
・外国の子、英語で学びたい子に対するニーズは、私立がリードしている。公立の役割をはっきりさせないと。外国人が今後増えるので、その子にどういう教育をするのか。
・４月入学の柔軟化も求めないと。ネイティブの先生も必要。

（多様な選択肢）
・自然学習と農業を一緒にするのは、「信州やまほいく」と同じ考えで、長野県の強みをどう生かすかが特色化で重要。
・入る学校を間違えたという子は潜在的にいる。進路選択の見直しに柔軟性を持たせてあげることが重要。
・公立は選択肢が少ない。教育費用負担軽減は、東京都が突出しているので、長野県は何をしているのかと言われかねないが、東京都にお金が偏りすぎている。国がやってほしい。
・りんご科など、長野県らしい学びはどうするか。地域の特色・産業を学ぶ視点は重要。学校単独では難しい。

（デジタル活用）
・ＳＮＳ含めたデジタルの活用。若い世代と一緒に考えないといけない。

（夏休み・部活）
・夏休みをもっと延ばすべき。
・部活のお金について、教育委員会と考えたい。

【特色化するには】
（他との連携）
・塾との連携や地域との連携は、長野県は対話と共創を掲げているので、学校の先生や子どもたちにいろいろな方と接していただきたい。
・学校と市町村との連携は、各学校単位でもっとやってほしい。市町村側は学校と繋がりたがっている。

（教員の役割）
・デジタルが進んで、A 校 B 校の特色という発想ではなく、複数校で一つの学び場へと変えないといけない。そのためにも先生のあり方を変えないといけない。
・わかりやすい先生の授業をオンラインで配信して、他の先生は授業の躓いている子の対応などを実施するには、踏み込んだ議論が大切。

○　県境校や中山間地校の存続にはどのような特色化が必要か

【高校再編基準】
・本当に再編は必要なのか。再編基準はそもそも何をベースに作られたのか。分校という形としても残すべき高校はあると思う。
・再編基準を定めたときと状況が非常に変わっており、この形で良いか検討する余地はある。
・学校の適正規模は一律にこれが望ましいというものはない。時代や地域の現状に合わせて検討し直すということはあり得る。
・公立の人気が下がって、再編にならざるを得ない状況なので公立の魅力化を。

【中山間地県境校ならではの特色化】
（地域資源の活用）
・徹底的に地域資源を最大限活用することが大切。地域の人やモノ、市町村のお金も含めて使うことが全国的に進んでいる動き。
・地域の産業や伝統を学べる学科が面白い。地元の高校にりんご科など尖がった学科が中山間地にはあってもいい。
・県境校が地域の拠点になり、自治体や地域で教育資産を共有する。
・白馬高校など、高校自体を観光地にできないか。

（地域との連携）
・地元に根ざした高校のほうが、地域との連携はやりやすく、魅力につながる。地元ならではの学べる場所を残していっていただけるといい。
・地域側や市町村側が土日の学習支援の環境を作っているところもあるが、それを実現するには、教員だけでは難しい。専従のコーディネーター配置が大切。
・地域産業や自治体との連携の中で学校をどうするかという議論が必要。
・高校再編の議論は、少子高齢化の中では、高齢者の活用を検討することも必要。
・ふるさと納税を活用した企業との連携を魅力化へ。
・地元とのつながりを大事にすれば、地元の高校に行くという選択肢も出てくる。

（学校間連携）
・県境校は単独でなく、小規模校同士のグループ化や単位互換など規模に応じた対応がある。
・中山間地の学校同士で連携できるといい

（オンラインの活用）
・インターネットでの授業など、県境高校でもいろんな先生の授業が受けられれば、大学進学を目指す子どもであっても、地元高校という選択が広がっていくのでは。
・オンラインの徹底した活用で、その学校に教員のいない科目（英語以外の外国語、情報、地学など）の授業も実施し、個別最適な学びの実現を。
・一学校主義をこえていくことが重要。小規模校ネットワークスクール構想のようなものをモデルとして作り、オンラインの活用や個別最適な学びを見せていくことが必要。

（他県等との連携）
・近さや進学率を見て、魅力があると思えば、隣の県でも進学する。
・中山間地は同質性が高い子たちがいるのが特徴。全国募集や学校間でのオンラインの交流、他校への留学など、越境や交流ができる開かれた学校へしていくべき。
・県境は選択肢が少ないから、全国で生徒の奪い合いをするより、隣接県と連携したほうが生徒のためになる。

【留意すべき点】
（様々なニーズへの対応）
・県境校は、地元の子たちのニーズは多様なので、特色化を出すと地元の生徒に選ばれにくくなる。一つの学校の中でその多様性に対応することが必要。
・県境校は学力幅が広いので、より個別最適が必要。小規模校は、教員の数も時間も少ないのに、多様性に対応するのは、ものすごい大変。
・県境でも多様な学びができるような形が必要。軽井沢高校や長野東高校のように、単位制などが多様性に繋がる。
・学科などで特色を出しやすいのは、高校が多く生徒が選びやすいところ。中山間地が価値を発揮するには、特色よりデュアルや単位制などの学びの形。

（教員人事）
・県境校には、初任の先生しかおらず平均年齢が 30 代。特色化するには人が必要。

（参考）オブザーバー意見

【高校再編基準】
・予算を所管する私からすると、学校規模や教員数をどうするかは、直接予算に反映するので慎重に考える必要がある
・学校単独で規模を論じず、オンライン等の活用で学校の箱に限らず学習できるので、時代に合わせた学習を
・高校再編の時は、何年間この基準で持つのか関心がある。

【留意すべき点】
（教員人事）
・教員人事の問題は、僻地手当等は県で考えないといけないが、公務員で人事配置の中で動いているので、教員の人事のあり方として考えないといけない。

再掲

２　高校１年生の進学意識調査の結果

（特色ある県立高校づくり懇談会）

１　調査概要

令和４年８月実施　県内の高校１年全生徒対象　回答率79.0％　回答数11,032件

２　調査結果

（１）高校選択の際大切にしたこと（複数回答）

普通科

１ 雰囲気が良い（37.8%）
２ 自宅から近い（36.6%）
３ 合格できそう（35.0%）
４ 大学進学に有利（26.6%）
５ 授業についていける（23.6%）

農業科

１ 特色があるから（48.1%）
２ 自宅から近い（34.2%）
３ 希望職種に関連（31.4%）
４ 雰囲気が良い（26.6%）
５ 授業についていける（26.3%）

工業科

１ 希望職種に関連（47.5%）
２ 特色があるから（40.2%）
３ 就職に有利（39.6%）
４ 自宅から近い（31.6%）
５ 合格できそう（19.9%）

商業科

１ 特色があるから（36.7%）
２ 就職に有利（35.9%）
３ 自宅から近い（34.9%）
４ 雰囲気が良い（28.0%）
５ 合格できそう（27.2%）

＜参考＞　保護者のニーズ　（県内800人以上の回答）

＜進学させたい学科＞

１ 子どもの希望（55.6%）
２ 普通科（22.6%）
３ わからない（5.6%）

※単一回答

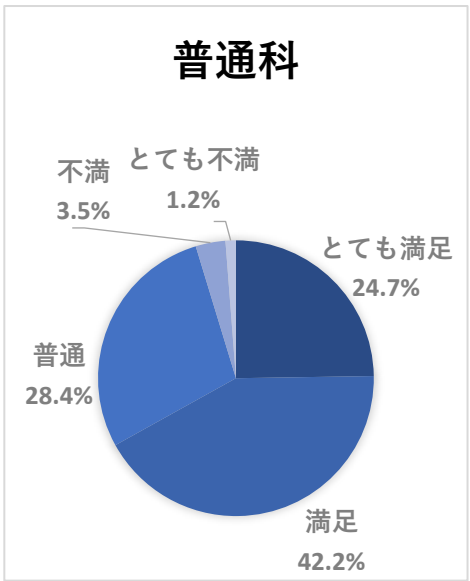
＜高校選択で重視したこと＞

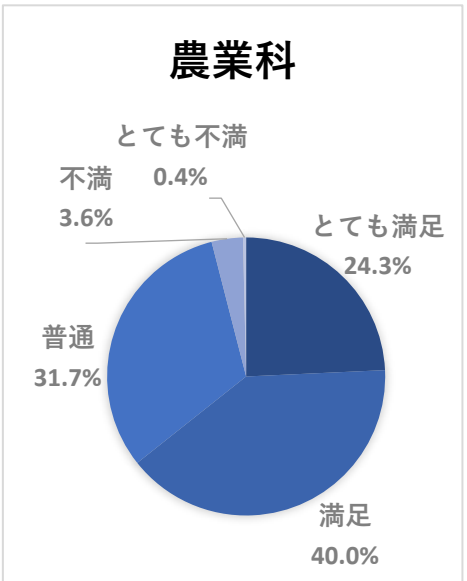
１ 雰囲気（67.5%）
２ 将来の仕事関連（54.4%）
３ 自宅から近い（52.7%）
４ 特色がある（48.3%）
５ 大学進学に有利（42.2%）
６ 授業についていける（34.2%）

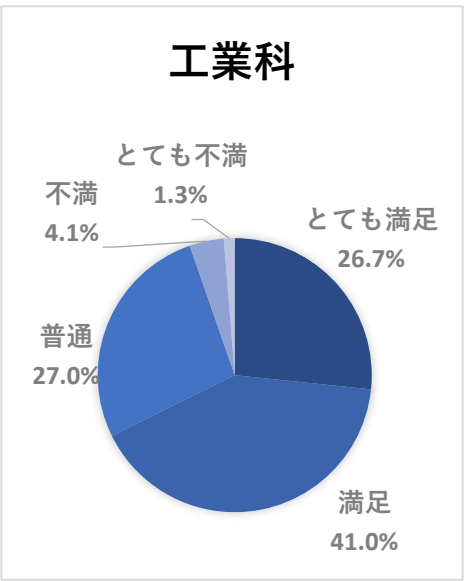
※複数回答

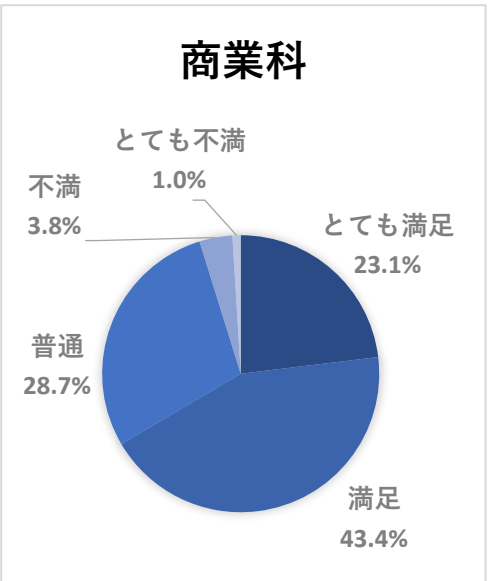
（2）学科別の満足

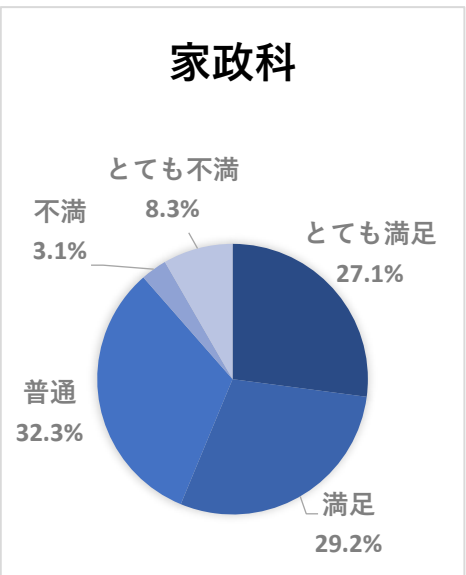
※複数回答

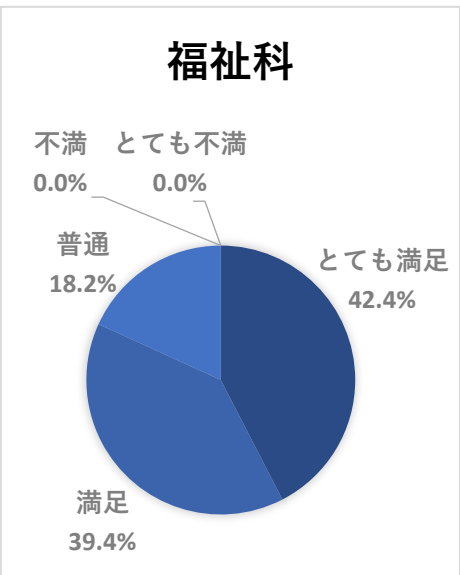


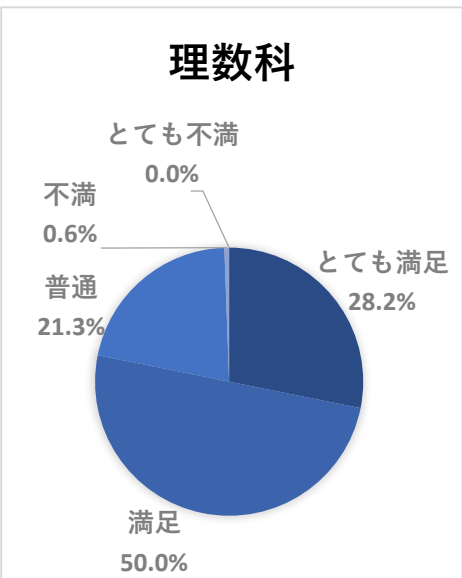


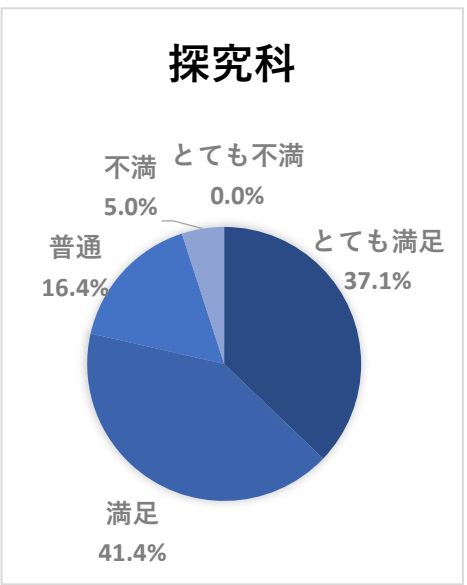


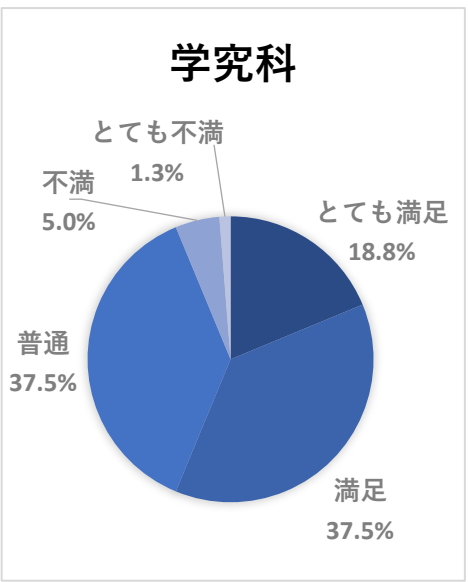


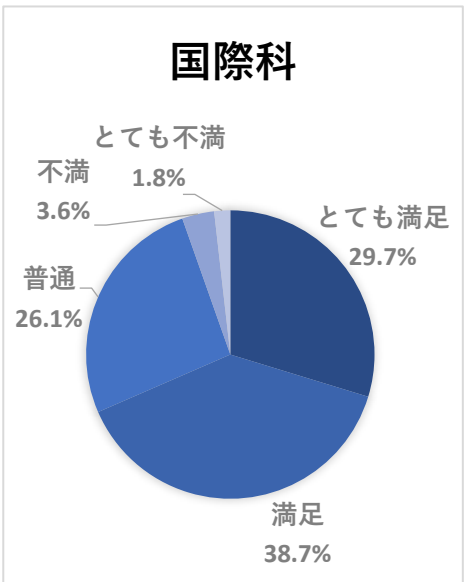


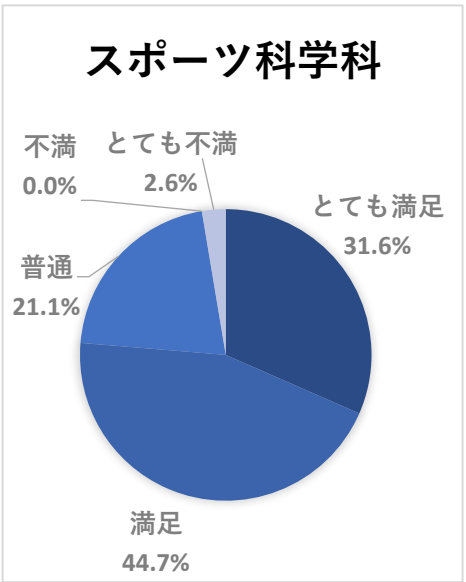


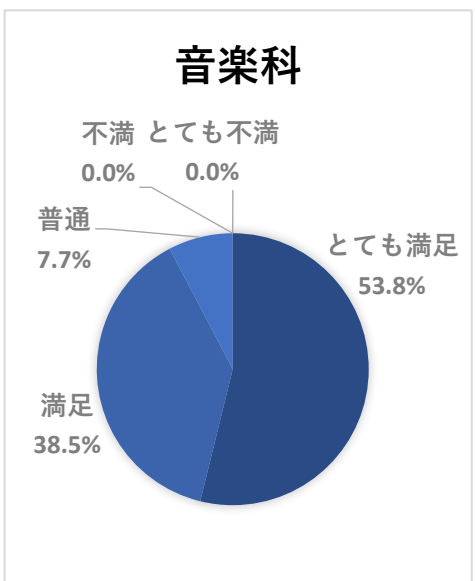


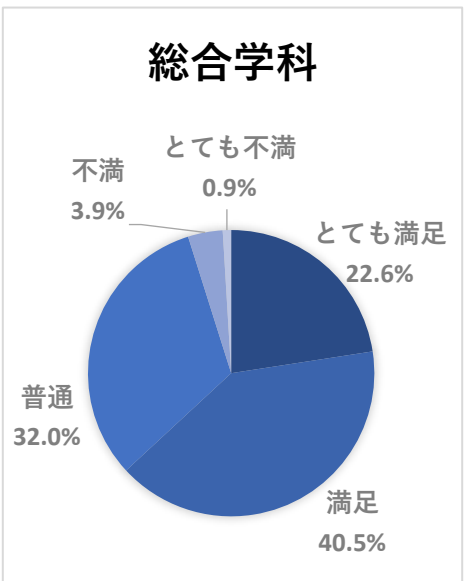


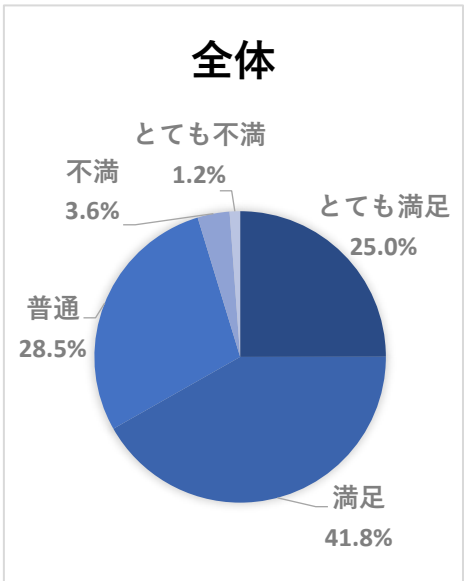




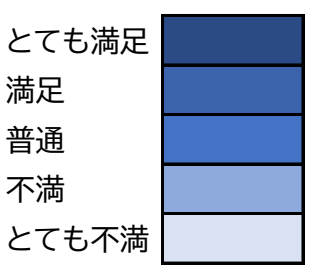








〔凡例〕

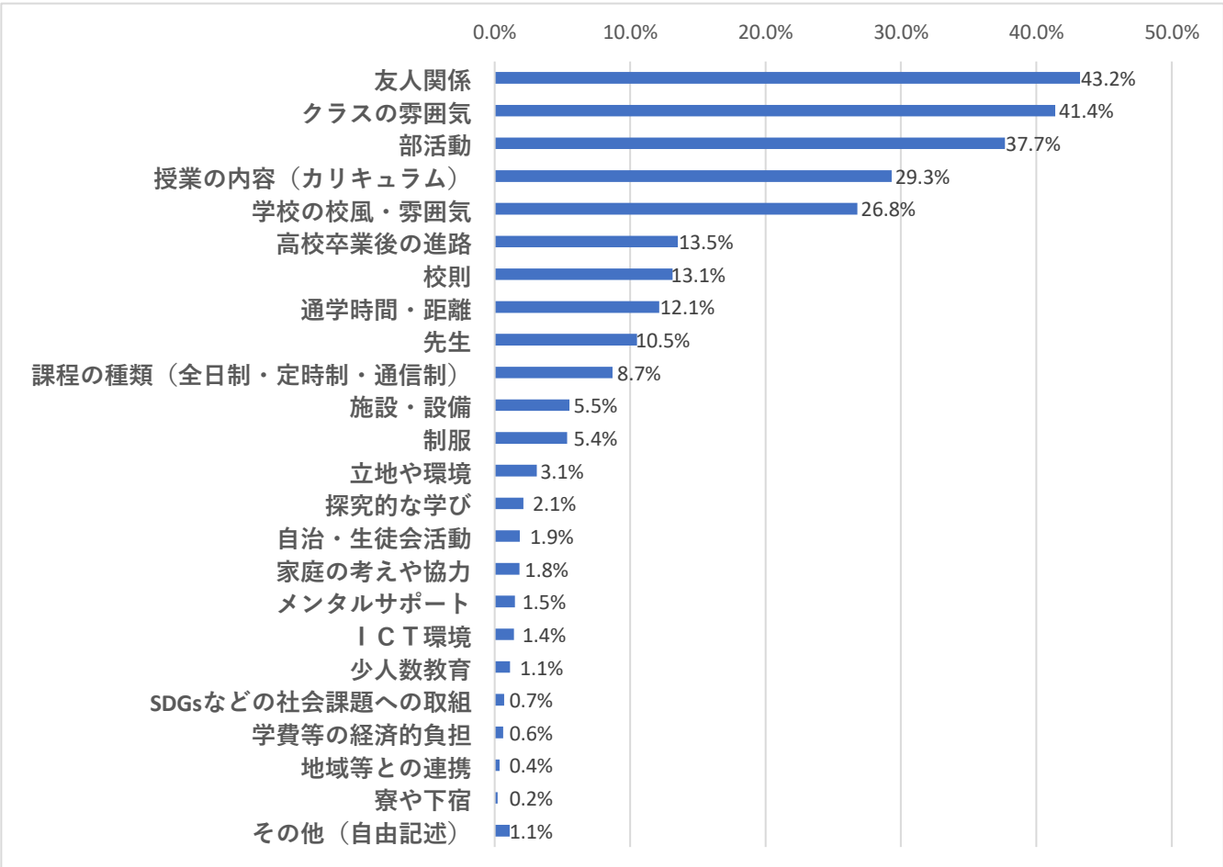


高校教育課調べ

（３）満足度を左右する要因

※複数回答

	回答数	割合
友人関係	4769	43.2%
クラスの雰囲気	4568	41.4%
部活動	4156	37.7%
授業の内容（カリキュラム）	3233	29.3%
学校の校風・雰囲気	2955	26.8%
高校卒業後の進路	1491	13.5%
校則	1449	13.1%
通学時間・距離	1340	12.1%
先生	1160	10.5%
課程の種類（全日制・定時制・通信制）	959	8.7%
施設・設備	608	5.5%
制服	591	5.4%
立地や環境	344	3.1%
探究的な学び	235	2.1%
自治・生徒会活動	205	1.9%
家庭の考えや協力	201	1.8%
メンタルサポート	166	1.5%
ＩＣＴ環境	158	1.4%
少人数教育	124	1.1%
SDGsなどの社会課題への取組	78	0.7%
学費等の経済的負担	69	0.6%
地域等との連携	39	0.4%
寮や下宿	23	0.2%
その他（自由記述）	122	1.1%



高校教育課調べ

３　高校生の声を聴く会の発言まとめ

（特色ある県立高校づくり懇談会）

特色ある県立高校づくり懇談会での議論の参考とすることを目的に、構成員が現役高校生の生の声を聴く機会を設けた（松本工業高校と上田高校にて開催）。

その際の高校生の主な声は以下のとおり。

１　松本工業高校での声を聴く会（第２回懇談会の際に開催）

（１）概要

・日時　　令和５年８月９日（水）13 時～13 時 50 分

・場所　　松本工業高校

・参加高校生　　全 20 名

・松本工業高校	５名	・穂高商業高校	３名
・南安曇農業高校	３名	・梓川高校	３名
・松本筑摩高校	３名	・塩尻志学館高校	３名

（２）主な発言内容

〇高校とは

・自分が何をしたいかを明確にできる期間が高校時代

・自分で考える力を身に付ける

・高校時代はいろいろと揺らぐ時期。進路などが縛られるのは嫌

・高校に入ってから大きく進路が変わる

〇今の高校を選んだ理由

・人と異なる進路選択。特色で選んだ（松本工業）

・プログラミング、ものづくり（松本工業）

・普通科より専門的なことを高校で学んだうえで進学したいと考えた（穂高商業）

・身体と健康の学び（南安曇農業）

・動物に関する資格が取れる（南安曇農業）

・ビジネス関係の学習ができる。私立は金がかかる（梓川）

・定時制は自分のペースで学習できる（松本筑摩）

・前の学校に馴染めず転校してきた（松本筑摩）

・将来就職したい職業と関連のある高校を選んだ（塩尻志学館）

・林業の資格が取れる（塩尻志学館）

・福祉を学びたい（塩尻志学館）

〇卒業後の進路

・現在の学びをさらに深めるため進学（松本工業）
・進路が決定している生徒もいれば、高校に入ってから決まる生徒もいる（松本工業）
・簿記資格を活かして事務職（穂高商業）
・進学して、いま学んでいる簿記を発展させたい（穂高商業）
・栄養系の大学進学（南安曇農業）
・介護士。就職後に国家資格を取る（梓川）
・短期大学へ進学（松本筑摩）
・親の影響で管理栄養士を目指している（塩尻志学館）
・高校で学んだ土木を活かしたい（塩尻志学館）

〇就職するなら地元か

・視野を広めるため県外の大学へ行きたいが、就職は地元がいい
・地元を希望。家族や友人の近くで働きたい
・外に出たいとあまり思わない
・自分の力を試すことができれば、県外でも地元でもどちらでもいい
・都会へのあこがれで県外へ行く友人もいる
・働く場所に縛られたくない

〇高校ではどのような学びができるとよいか

・お金の管理等、社会に出たあと使える知識が学べるとさらに良い
・就職先によって必要な知識が様々。もっと幅広く学べたら進路の選択肢も増えた
・知らないことを多く学べる環境を作ってほしい
・自分の学んだ知識がどのように使われるのか知りたい
・企業が求める技術を教えてほしい
・地域の方の講話を増やしてほしい
・学力と同じくらい道徳性を重視してほしい
・（職業科にて）就職のケアは手厚いが、進学のケアが不十分
・（職業科にて）大学進学を視野に入れた普通科目の拡充がもっとあってほしい

２　上田高校での声を聴く会（第３回懇談会の際に開催）

（１）概要

・日時　　令和５年 11 月 15 日（水）14 時～14 時 50 分
・場所　　上田高校
・参加高校生　　全 21 名（上田高校１～2 年生）

（２）主な発言内容

〇高校で学ぶ理由

・学ぶことにより考え方が豊かになるから
・大学受験のため
・大学進学は将来を考えたときの通過点
・自分の夢を見つけ、視野を広げ、夢を叶えるために大学へ行く。そのために学ぶ
・人生を楽しむため
・将来使わないかもしれない知識も、将来役に立ち、発想の転換のきっかけになる
・大人になり、親の支えがなくても強く生きていくため
・将来自分が好きなことを学ぶには、今の勉強の積み重ねが必要

〇高校とはどんな場所か

・楽しいこと辛いことをたくさん経験でき、自由で、いろいろなことに挑戦していい場所
・高校は知識を蓄える場所

〇あるべき高校生の姿

・勉強も模試も、自分で課題を見つけて分析し、自分で選択していくことが本来の姿
・生徒に裁量や、もっと選択の幅を
・自分で自分のことをコントロールできる人間が増えたほうがいい
・自分で動ける人が増えるようなシステムがないだろうか

〇上田高校を選択した理由

・絵画や書道が好き。でも、将来やりたいことが急に変わるかもしれないから
・ＷＷＬ（ワールドワイドラーニング）の学びに興味があって

〇上田高校での生活について

・人間関係が楽。ある程度学力が同じだから
・大きないじめがない
・固い授業ではなく、楽しく学べている
・将来色々な選択肢があるのに、大学進学が目的で、大学進学に縛られている
・校則が厳しい。宿題の縛りも
・リーダーシップをみがく機会がない

〇ＷＷＬ（ワールドワイドラーニング）の学びについて

・大学受験には直結しない。しかし、その先を見たときに有意義だと思う。
・課題が多い。やらされている感がある
・探究は個人ではなくグループでやるという選択肢があってもいい
・地域の方と交流するための機会やきっかけを作ってほしい

〇どんな高校が求められるのか

・いろいろな活動に手を出しやすい高校
・対等にしゃべってくれる大人と一緒に活動、学習できると楽しいのでは
・一斉授業を行う学校と、グループワーク中心の授業を行う学校とを選べると良い
・都会や海外との交流で、色々な角度から物事が見える機会を
・留学制度があるが、お金がかかるので踏み出せない
・海外研修にお金がかかり、親に止められた。支援の充実を
・大学進学向けのクラスが欲しい
・学校の自習室に、先生が入って教えてくれると効率よく学習できる。
・予備校のように自分で先生が選べるようにしてほしい。

〇高校の設備面や制度面等で直してほしいこと

・休日がないこと
・設備の古さ
・ホームページを見やすくしてほしい
・文系でも化学や地理が選択できるように、選択可能科目を増やしてほしい
・夏休みがとても短い
・ＯＢ訪問は、教授ではなく、年齢が近い人の話を聞きたい

再掲

４　県内産業界等へのヒアリング結果

（特色ある県立高校づくり懇談会）

１．概要

特色ある県立高校づくり懇談会の第２回目の議題である県立高校の配置や学科構成について、議論の参考とするため、産業界の皆様からヒアリングを実施

２．ヒアリング時期：令和５年７月

３．ヒアリング対象：医療、看護、介護、経済界、観光、農業、林業、建設の代表

４．ヒアリング結果

（１）業界の現状

○ 現在の採用状況と今後の見込み等

＜多数あった意見＞

現在も十分ではなく、今後も不足する見込み

＜特徴的な意見＞

・医療：足りてはいるが地域による偏りが大きいと思う。
・看護：今後も高齢化社会が進むので足りなくなる。
・介護：国の人員基準を満たさなければならず、恒常的に人手不足
・製造：他社の募集拡大や少子化の影響もあり厳しい状況が続く見込み
・金融：高卒大卒を問わずシステム人材の強化をしていく方針。
・観光：インバウンド拡大もあり人手不足は続くと思う。
・農業：十分な採用はできていない。今後も高卒採用には期待を寄せている。
・林業：毎年 10 人いるかいないか程度。慢性的に不足している。
・建設：業界のデジタル化も見据え、情報処理能力の高い学科からの募集も検討

○ 高卒採用に向けた取組状況

＜多数あった意見＞

職場体験、インターンシップ、学校訪問、就職セミナー、ホームページ等での広報

＜特徴的な意見＞

・介護：ボランティア体験の受入れ
・製造：初任給アップ、育成体制の強化、綺麗なトイレ整備
・建設：奨学金財団を設立し援助

（２）高卒採用に関する現状と課題

○ 重視する能力

＜多数あった意見＞

コミュニケーション能力、主体性、意欲、向上心、自ら考えて行動する力、協調性

＜特徴的な意見＞

・医療：向上心、忍耐力、倫理感
・看護：想像力（相手の感情、要求を読み取る力）
・介護：協調性（看護師、栄養士、理学療法士、作業療法士等との連携が必要）
・製造：国際社会での競争を視野に入れた骨太な若者、知的好奇心
・観光：目的意識を持っている者
・農業：明るく元気な学生
・林業：地元への興味・関心
・建設：真面目、頑張る力

○ 望ましい知識・資格等

・医療：国家資格取得が必要なため学力は必要
・看護：国家資格取得が必要なため基礎学力（国・数・英）
・介護：介護福祉士、実務者研修、初任者研修
・製造：簿記、ビジネス文書実務検定、フォークリフト、電気工事士
・金融：情報系の専門スキル
・観光：危険物取扱者、ボイラー技士、語学等
・農業：農業技術、農機具の整備技術、経理・簿記の知識、毒劇物取扱者、フォークリフト
・林業：マニュアル車の運転免許
・建設：２級土木・建築施工管理技士

○ 高卒採用者に対して足りないと感じている点

・看護：生活体験が足りないと思う
・介護：コミュニケーション能力
・製造：考えて行動すること
・金融：具体的に何をやりたいのか定まっていない
・農業：おとなしい人が多い印象
・建設：勤労意欲

○ 高卒採用の離職等の状況は

・看護：看護学部に入っても看護師にならないのは１割程度
・介護：排泄処理等があるので向かない人はすぐ辞める。2 年ぐらい続けば続くと思う
・観光：クレーム処理でメンタルを崩して辞める者が多い。
・建設：R5.4 の高卒採用は 80 人。R4 年度の 20 歳未満の退職者は 16 人。2 年間で 20%

（３）県立高校への要望

○ 学科の配置・募集定員等

・特別なコースを設置しなくてもやりたい生徒は目指すと思う。但し教員が進路について、いろいろな話をしてあげることは大事（医療）
・介護関連の資格所得や実務研修まで実施できる学科が必要（介護）
・福祉系は若干少ないように感じる。再編で減らさないで欲しい（介護）
・グローバルに生きる世代として職業科は増やして欲しい（製造）
・総合技術校はマルチに活躍できる人材育成という点で評価できるが、専門性が薄まってしまうことも危惧される（製造）
・社会の変化と産業の就業割合にあわせて見直すべき（製造）
・偏差値が高い高校は定員が多いと思う（製造）
・建設系専門学科（土木・建築）の確保をお願いしたい（建設）

○ 職業教育等の充実

・インターンシップとキャリア教育の推進（製造）
・地域の探究的な学びを深めれば就職に生かせるし、地域にプライドを持てる（林業）
・卒業後資格取得につながるカリキュラムにして欲しい（建設）
・総合学科での専門性のスキルも高めて欲しい（建設）

○ 高度化する知識・技術への対応

・ＩＴ教育の充実とＩＴ環境の整備（製造、建設）
・教員研修の充実（製造）
・専門的な学びへの外部講師の活用も考えていくべき（製造）

○ 進路指導のあり方

・看護業界を目指す子への後押しとなる動機付けをお願いしたい（看護）
・大学の看護学部だけでなく看護専門学校の良さも教えてあげて欲しい（看護）
・教員に福祉業界を理解してもらい生徒の就職に結びつく指導をお願いしたい（介護）
・地元に人が残るように動いてほしい（製造）
・地元就職の魅力を伝えて欲しい（金融）
・林業のことが分かる教員を増やして欲しい（林業）

○ 産業界に対する理解促進

・職業高校と企業の産学連携活動の強化（製造）
・在学中から地域や地域の産業ともっと関わることが大事（林業）
・教員と企業との意見交換の場を増やす（建設）

○ その他

・高校時代はいろいろな友達と話をして将来のことをよく考えることが重要（医療）
・スポーツ体験も仕事に活かせると思う（観光、看護）
・教員の人事異動を長期化し、特定の高校に貢献できる体制にした方がよい（製造）

再掲

５　教員アンケート結果

（特色ある県立高校づくり懇談会）

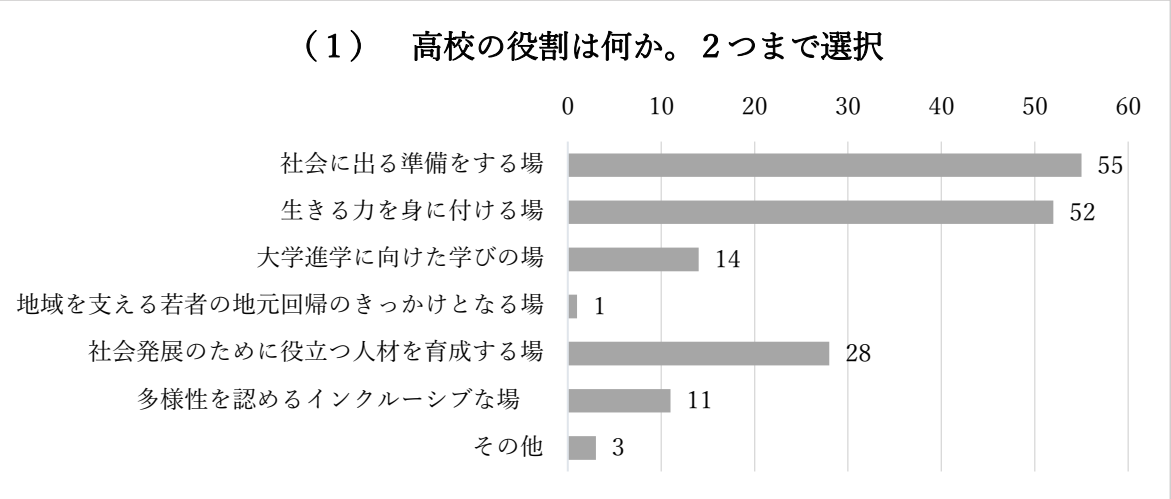
１　目的

特色ある県立高校づくり懇談会における意見交換の参考とするために、県教育委員会事務局内の学校教員を対象に、アンケートを行いました。（令和５年７月実施）

２　回答者（学校種別　単位：人）

小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	合計
13	19	42	8	82

３　集計　（人）



主な意見

・高校がどの生徒にとっても、これからの自分についてじっくり考えることができる場であってほしい。

・学力だけではなく、将来の生き方につながる経験がたくさんできる楽しい場。大学進学だけで考えていくのは苦しい。

・よりよく生きていくための準備をするのが高校の役割。

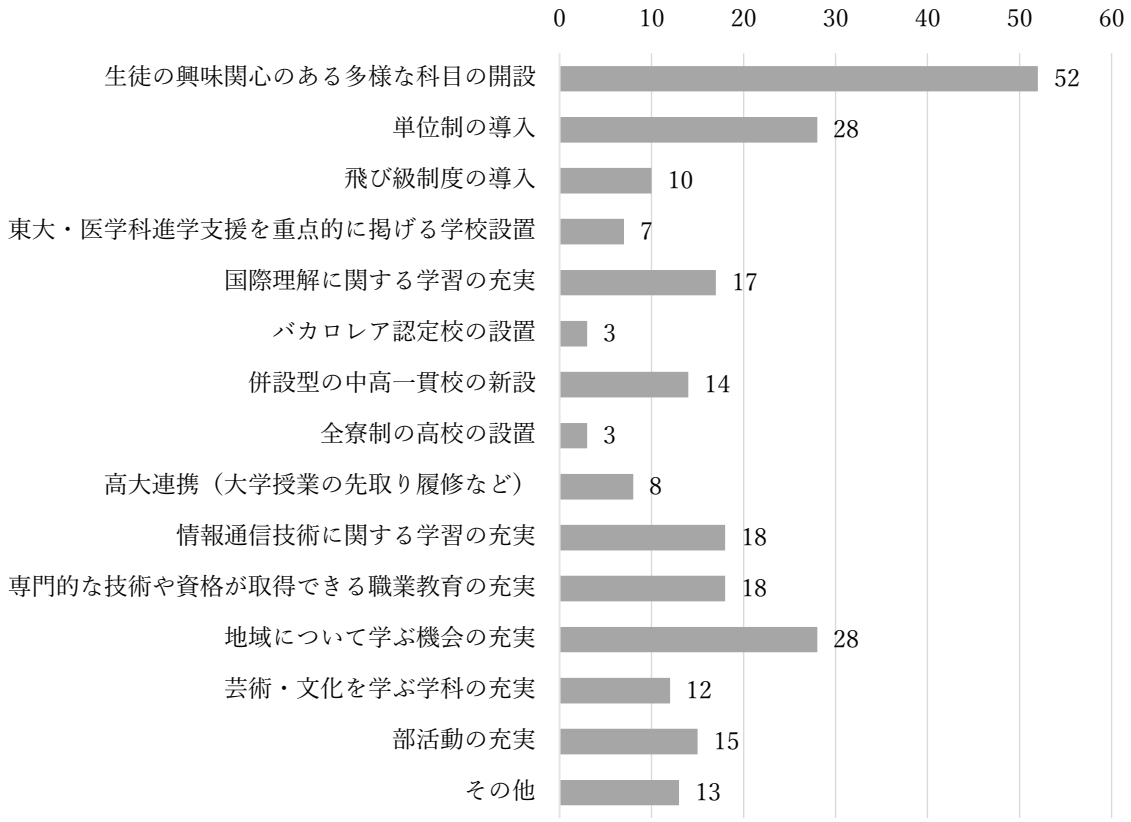
・社会人としての資質を育むことが大切だが、目の前のことに力を尽くすのも必要。

・自分の強みは自分以外の誰かから認められたり、違いを感じることで発見するものだと思うので、体験の機会を与えるのが学校の役割。

・希望する就職先、進学先に進むことだけをゴールとせず、幸せで安全な人生を送るため自分自身で選択ができる力をつけることが高校の役割。

・成人年齢が 18 歳となったことを考えると、社会人になるための準備、よりよく生きていくための準備をするのが高校の役割。よりよく生きていくことを学んだうえで、自身の進路実現を考えていくことが大事。いわゆる「良い大学」に行っても、よりよく生きることを学んでいなければ本末転倒。高校は社会に出ていく準備をする最終段階の役割を担っているのではないか。

（２）　どんな高校（特色）が必要か



主な意見

・生徒の興味関心を引き出すために様々な体験ができる学校があればいい。

・科目選択をより柔軟にできるようになることが必要。

・生徒の興味関心によって、様々な選択肢があるということも重要。一方で、変化の激しい時代だからこそ、様々な教科を多岐にわたって学び、教養を身に付けることも大切。何が役に立つか分からないからこそ、様々なことを学んでおくのが良い。

・自分にとっての興味関心がある学びを選べることが重要。地域を学ぶだけでなく、地域の人・企業人・NPO 法人にかかわる人々など多様な人生観や生き方に触れて欲しい。

・「地域について学ぶ」というよりは、「地域を通して学ぶ」という形で、この地域の良さを実感しながら成長していくことで、地域への愛着が生まれるのではないか。

・高校が減少すると、生徒の選択肢が少なくなるため、寮は必要。

再掲

６　市町村・市町村教育委員会アンケート結果

（特色ある県立高校づくり懇談会）

１　概要

特色ある県立高校づくり懇談会のこれまでの議論を踏まえ、高校の更なる特色化・魅力化について議論を深めるために、アンケートを実施

２　アンケート期間：令和５年 11 月 28 日～12 月 18 日

３　アンケート対象：長野県内全市町村長及び市町村教育長

４　アンケート結果

（１）これまでの高校

○　現在の県立高校の良い点として今後も残していくべきもの

【多数あった意見】

- **地域に根差した学び**：他者と協働し、地域課題の解決に取り組む能動的な学習
- **特色ある学科**：特色ある学科、コース等を設置して学びへの興味を広めていること
- **各高校の取組**：学校独自の特色ある取組
- **地域との連携**：学校と地域との連携を大切にした学校運営
- **自主性の尊重**：生徒の自主性や自律的な活動を尊重する伝統、放任とは異なるこのような理念
- **独自の伝統**：建学の理念や歴史を色濃く残して独自の校風が築かれている
- **学びの工夫**：思考・表現力重視の授業の成果が見て取れ、指導の改善が図られている
- **高校配置**：様々な課程や学科の高校があり、組合せで多様な学校がバランスよく配置できている

【特徴的な意見】

- **個に応じた学び**：発達障がいの生徒が増えている状況を踏まえ、多様な学びの場を用意
- **中山間地存立校**：市町村と協力し、学科の工夫をして存続を図るなど、地域校を切り捨てない点
- **探究的な学び**：探究の時間を重視しての「学びに向かう力」の育成に努めていること
- **経済面の配慮**：学費が安いことが県立高校のメリット
- **通学面の配慮**：中山間地であってもある程度通学の便が良い
- **小中学校等**：地元の小中学校や大学等とつくり上げてきた交流や連携等
- **通学区**：12 学区制から緩やかな学区制にした点は、生徒の選択肢を広げており、評価できる

【その他】

- 学校生活を送る上で困ったことがあっても、公的機関であるため相談しやすい
- 男女間の協力が生まれるように男性の立場、女性の立場を学ばせるために、男女共学は残すべき

○　現在の県立高校について、課題と感じていること

【多数あった意見】

・**偏差値による選択**：学校の特色ではなく、偏差値等成績による輪切りで選択していること
・**進路変更の弾力化**：高校入学時に選択した学びの方向性を途中でも変えられる仕組みが必要
・**中山間地存立校**：地域によって、生徒数の減少により存続が困難になること
・**高校の情報発信**：どのような特色があり、どんな学びに力を入れているとの情報発信が少ない
・**他機関との連携**：小中（義務教育）との連携が薄い
・**探究的な学び**：高校ではまだまだ「探究型」の学びが不十分であると感じる
・**施設の老朽化**：学ぶ環境として校舎の古さ、現代の教育に対応とは言いがたい教室環境等は課題
・**流入流出等**：優秀な人材が県外や他地域の人気校や進学校に流出してしまうことは大きな懸念
・**授業改善等**：小中学校にも共通して言えることだが、一斉教授型の授業からの脱却が課題
・**受入れ体制**：自己肯定感の低さや課題を抱えている生徒への個別のケアが十分ではないと感じる
・**特色化**：選ばれるためには、この高校ではこれができるというオリジナリティやブランドが必要

【特徴的な意見】

・**都市部と山間部の格差**：都市部校に人気が集まり、地域校に志望者が集まらない状況は課題
・**高校で育むべき力**：生きる力、自律心のある高校生を育てる
・**小規模校化の弊害**：人と接する機会が減り、コミュニケーションを育む環境が狭くなっている
・**キャリア教育等**：キャリア教育、社会体験的な学び、ＩＣＴ教育が不足している
・**教員の負担軽減**：教師の負担軽減（弁護士に相談できる体制、事務のデジタル化による軽減）
・**特別支援学級等**：義務教育の特別支援学級で手厚い支援を受けた生徒が高校で支援が途切れる
・**少子化の課題**：子どもの減少による生徒数の確保。生徒数の減少に対応した学校の運営が必要
・**通学への配慮**：通学の利便性、遠隔地からの生徒への配慮
・**私立との比較**：私立に比べて学校の特色が見えづらい
・**学校規模等**：定員割れの高校や学科が生じてきていることから、適正な教育・部活が施しにくい
・**スポーツ**：スポーツ科などは、スポーツ関連にしか就職できない、イメージがある
・**高校再編**：地域の意向は大切だが、再編は免れない状況であり、粘り強く交渉を進める必要がある
・**普通科**：普通科において、特徴が見えにくい
・**不登校**：不登校等の生徒への支援
・**学力**：難関大学合格者が少ない

【その他】

・普通高校は特に故郷教育がなされていない。教師が地元にどれだけ愛着を持っているか不明
・生成 AI など加速度的に変化する環境のなかで、変化に対応した教育内容を提供しているのか疑問

（２）　これからの高校

○　新たにどのような学びや特色が必要か

【多数あった意見】

・**地域に根差した学び**：地域に学び、地域に発信、還元していく高校

・**地域を担う人材育成**：その地で育ちその地を担う人材育成を目的とした教育

・**ＩＣＴ技術等の活用**：通学負担の軽減や学びの自由度のため、リモートなどでも学べるスタイル

・**個に応じた学び**：個々の才能や興味にあわせた教育内容の提供

・**他機関との連携**：地域の小中学校や大学、企業等と関わり合う学びの一層の充実

・**探究的な学び**：探究的に学び、願う進路を実現できる力を身に付けられる教育の実現

・**カリキュラム**：自発的な学びのサポートのため、教科横断など柔軟なカリキュラム編成が必要

・**地域との連携**：多様な学びを支える地域との連携

【特徴的な意見】

・**既存校での学びの発展**：すでに地域に密着した素晴らしい取組の展開

・**キャリア教育等**：個々のキャリア教育の充実や社会経験の充実（アルバイト、異年齢交流等）

・**特化した学び**：地域の特色やスポーツ・英語・音楽など、一つにおいて特化した高校教育

・**新分野の学び**：生成 AI などデジタル分野、金融教育、環境教育

・**国際的な学び**：世界情勢をいち早く取り込み、多方面でワールドワイドに活躍できる人材の育成

・**特別支援教育**：発達障がいなどの特性を持った生徒にも、安心して学べる環境と学びの機会が必要

・**資格取得**：将来に向けて資格取得を目指す学習

・**専門学科**：職業科からも大学進学を増やしたり、他学科の内容を学べるようにする

・**情報発信**：各高校での特色ある学びや活動の見える化を積極的に行うべき

・**施設整備**：財政的な課題はあると思うが、ここに力を入れることは魅力化を実現する上で不可欠

・**全国募集**：県外からもここで学びたいという高校があってもよいのでは

・**部活動等**：部活動の特化とその支援

・**教員研修**：新たな学びに向けての教職員研修を進めること

・**単位制**：高校を単位制にし、学校間における単位取得の互換性を取り入れる

・**通信制**：不登校徒の通信制への進学が際立っている。県立の通信制の増設希望も多くなっている

・**編入**：学びの場の見直しという視点から、県立高校の編入制度の柔軟化の検討が必要

・**通学**：通学における利便性の確保

【その他】

・卒業後の学生が、引き続き学べる場があることも大切

・大学への進学に向けての公的な学習機関の設置

・コース別の学びを取り入れ、学力のある子は、より学力を伸ばす取組

○　特色化にあたり課題と感じていること

【多数あった意見】

・**地域連携コーディネーター**：様々な主体をつなぐコーディネーターの確保

・**教員の資質向上等**：教育は最終的には人、教員の教育観や指導力等が問われる

・**教員の意識改革**：意識変革が課題。探究学習や生徒主体の学びへの方向転換は並大抵ではできない

・**高校の情報発信**：高校の特色の情報発信が弱いように思います

・**他機関との連携**：学校間や地域との連携等、ニーズに応じて幅広く学びを保証していける仕組み

・**外部人材の活用**：外部からの講師の招聘等の仕組みづくり

・**カリキュラム**：生徒たちのニーズによって柔軟にカリキュラムを構成していけるような仕組み

・**地域との連携**：地域の理解及び連携とそれを持続させ続けること

・**予算・財源**：教職員の人数や予算の確保

・**教員確保**：教職員の充実と確保

【特徴的な意見】

・**ＩＣＴ技術等の活用**：公共交通が乏しい地区は、ICT を活用した遠隔授業の充実が必要

・**県教委の方針**：教委が指向している学びを各校で確実に具現化していくことが求められる

・**設備・備品**：最新の技術にキャッチアップするための機器等の集中的な整備が必要

・**生徒の確保**：特色ある学びを行うには生徒数を確保していく必要がある

・**高校入試**：偏差値ありきの高校入試の傾向が否めない。入試改革に期待する

・**高校再編**：再編が行われているが、単位制、遠隔授業、連携型中高一貫など学びの多様化が必要

・**授業改善**：古い一斉授業にしがみついている授業の打破

・**教員配置**：教員数の増加と柔軟な配置

・**全国募集**：他県から生徒を募集できる体制

・**学生寮**：学生寮などの環境整備

【その他】

・単位制・遠隔授業及び連携型中高一貫校など学びも多様化させていく必要があると感じる

・多部制・単位制への転換は地域により様々な意見があると思われる

・今までの「高校での学び」のイメージからの脱却するための住民や保護者、生徒たちの意識改革

・校長のリーダーシップによる学校マネジメント

・一クラスの生徒の人数の制限

・学習指導要領に沿って学習を行うことは重要だが、縛られると特色が失われてしまう可能性がある

・授業時間の確保（探究的学習は一定程度まとまった時間での実施が有効であると考える）

・英語力（話せる・聞ける）を高める必要がある